

教育目標			教育方針			
<p>予測困難な時代の中にあつて、変化に対応することで豊かな人生を送るための「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を身につけさせ、自立して生きられる力を育む。</p>			<p>地域ボランティア活動や災害ボランティアによって、生徒に自己有用感を持たせるとともに、基礎学力の定着と人間関係スキルの習得とを充実させることで、自信と誇りを身につけさせ、生徒一人ひとりの将来像の発見と実現に結びつける。</p>			
<p>自己評価について 達成度 80%以上 A 65%以上 B 45%以上 C 30%以上 D 30%未満 E</p>						
番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
1	総務部	円滑な校務運営	<ul style="list-style-type: none"> ①職員会議資料、年間行事計画及び打合内容等の電子化に取り組み、共有化を進めることで、内容の周知、資料の有効活用を促す。 ②1～3部に渡る生徒意識、職員間の意思疎通を計るべく全校一斉行事、各部の行事内容を統一して充実性を図る。 ③校内の設備環境を整備し、職員・生徒が充実した学校生活を送ることができるようにする。 ④近年の気象状況を考え、生徒の健康配慮を行うために、各行事に関して可能な限り時間短縮に努める。また、集会等ではICT機器を活用して適宜サテライト集会を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①各自が必要に応じて必要な資料を印刷して活用できるように共有フォルダにPDF化した資料を保存した。この取り組みは今後も続けていく。 ②新型コロナウイルス感染症拡大防止や天候の影響で、文化祭や体育祭が中止となった。しかし、担当部署で代替行事を検討・実施して対応した。来年度は一斉行事ができるように可能なコロナ対策を取ることで実施する。 ③教務部と連携して、破損している机や椅子の数を調査し、新しいものと交換した。来年度は職員室の環境を整備する。 ④各教室にプロジェクトが配置されたので、すべての教室に映像の配信ができた。今後も情報担当者や連携して、多くの教職員が配信を担当できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、このような状況のため行事が中止されたことは仕方がない。その制限された中で、やれることを工夫して学校行事を実施されたことはすばらしい。 ・学校HPの活用について、どれくらい活用できたのか、またコロナ禍での生徒の状況を地域へどれくらい発信できたかを知らせてほしい。 ・学校の良さを大いに発信され活動されています。教員の方々が生徒に寄り添われている様は、生徒たちにとっても心強いと思います。 ・学校行事が少なくなり、3つの部の生徒たちが一堂に会する場面が少なかったことが残念です。
		地域、中学校等への広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ①中学校に本校をより理解してもらうため、オープン・ハイスクールや学校説明会を活用して本校のこの地域での役割や教育活動の特色を伝える。 ②ホームページなどを活用し、高校生ふさと貢献活動等とおした本校の取り組みを地域や中学校に公開することで広報活動を推進する。 	A	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オープン・ハイスクールや中学校への学校説明会の実施回数が制限されたが、ホームページへの動画配信を活用することで対応した。来年度は動画配信を適宜更新する。</p>	
		地域、育友会、同窓会等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ①育友会及び地域の方々の積極的な参加を促すことで連携を図り、文化祭、体育祭、オープンスクール等の諸行事を実施する。 ②クリーンキャンペーン等の活動を通じて、育友会・地域の方々と交流を深める。 ③学校ホームページを積極的に活用し、地域や同窓生に本校の活動状況を公開することで、連携を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、育友会や地域の方々と連携する機会を持つことができなかった。 ②今年度は他の行事と日程調整をするなかで、クリーンリバー・プロジェクトとクリーンキャンペーンを併せて実施した。今後は新型コロナウイルス対策と感染状況を確認し、保健部と連携して地域の方々と交流を進める。 	
4		多部制・単体制の利点を生かした教育課程の編成と運用	<ul style="list-style-type: none"> ①所属する部以外の授業の受講や、多様な単位修得方法(高等学校卒業程度認定試験・技能審査による単位認定、定通連携併修)を展開する。 ②生徒の多様性に対応した特色ある学校設定科目の設定と運用をおこなう。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①達成 ②達成 <p>令和4年度の学習指導要領の全面実施にあたり、観点別学習状況評価を円滑に行えるよう、準備・教職員への周知を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた工夫がなされていることや、学校独自の検定を設け、生徒の学習への意欲付けも行われていることなど一人一人の生徒に丁寧に関わっていただいていることに感謝します。生徒・保護者アンケートから高い評価がうかがえます。
5	教務部	質の良い授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ①シラバスの作成と一般公開(ホームページに掲載) ②授業における生徒情報・配慮事項を全教員で共有し、生徒が授業を受けやすい環境を作る。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を展開する。 ③オープンスクール(授業公開)を活用して教員の授業力向上を図る。教科の枠を超えて、多様な指導方法を取り入れる機会を作る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①達成 次年度も継続する。 ②・③おおむね達成 <p>臨時休校中に生徒情報を集約した資料を提供することができた。教職員が在宅勤務実施中のため、資料を配布する形で対応した。第1回オープンスクールは中止、第2回オープンスクール「授業のユニバーサルデザイン化—生徒の意欲を引き出す—」をテーマにして実施した。授業見学とその後の教科会という形で研修をおこなった。また、各教科会の結果を集約して教職員に配布した。次年度もこの形で継続したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で学校の開始が遅くなり、その間のオンラインでの授業の案内もあつたが実際に行われたのか。オンライン授業を充実させることは、登校しにくい生徒、どうしても登校できない生徒たちの学習に役に立つと思います。 ・生徒自身が多部制・単体制の利点を把握して教員の皆さんと一緒にポジティブに学校生活に取り組み、質の良い授業が実施されていると思います。
		学習指導の効果を高める取組	<ul style="list-style-type: none"> ①習熟度別クラス(国・英)、少人数クラス、複数教員による指導(チーム・ティーチング)等を効果的に活用する。 ②学校設定教科「コーピング」で学習スキルを高める「コーピング・メソッドタイム」を実施する。 ③独自検定「北高検定」を5級以上認定者の割合を50%とする。 ④独自検定「北高検定」の取組を通して、生徒に自らの得意・苦手を把握させ、自ら学ぶ姿勢を養う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①達成 次年度も継続する。 ②おおむね達成 授業冒頭で学習スキルを学び、授業後半でそのスキルを活用する時間を設けた。外部教材を効果的に活用することができた。 ③事前学習の充実を目標に取組んだ。今年度より「5分間チャレンジプリント」という検定範囲を簡潔にまとめたプリントを導入した。数値目標については、第3回までの結果において国語79.2%(昨年度63.1%)、社会64.0%(同78.0%)、数学48.3%(同53.1%)、理科63.1%(同52.7%)、英語59.2%(同34.6%)であった。12月に今年度全4回の検定を終え、生徒むけにアンケートを行う。 ④職員室前にスペースを設置した。次年度も継続する。 	
7	生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と校則を遵守する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度やマナーを改善させるルール作りと指導の徹底 ②時間の厳守、あいさつの励行を推進するためにあいさつ運動や日常の声掛けを行う。 ③生徒のスマートフォン使用時間帯を把握し、生活習慣を自ら見直す姿勢の確立 	A	<p>語先後礼の徹底や授業時間を大切にすることは浸透してきた。また、あいさつができる生徒も増えてきている。しかしながら、一部の生徒が授業に集中できていないことがある。生徒が授業に集中できる時間が年々短くなってきている。次年度はスマートフォンと集中力の因果関係に着目しながら、生徒の生活習慣を見直す仕組みを確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりの中で生活をしているので、自己有用感を高めることが大切だと思います。 ・「ありがとう」が言える生徒、言ってもらえる生徒を育成するためには体験することや行動に移すことが大切であり、そういった取組を今以上に実践してほしい。
		生徒の自己有用感・達成感の育成	<ul style="list-style-type: none"> ①ボランティア活動に参加する生徒を増やし質的拡充を推進する。 ②日常の全員清掃を実施し、掃除のやり方を掃除監督が指導する。 ③生徒会活動・部活動・学校行事を通して生徒を鍛える。 ④学校行事の役割の中に生徒を配置し、生徒が活動する領域を広げ、学校行事の充実を図る。 	B	<p>生徒会活動の自治能力を育成するために生徒自らが積極的に行動に移せるように、学校行事の計画を生徒に計画させるなど例年と違うやり方に代えた。失敗もあつたが、生徒の達成感は得られた。コロナ禍においてボランティア活動に制限が生じてきたが、新たな手段を用いて可能な活動を行うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーについては、「なぜそれが必要なのか」を考えさせることも大切だと考えます。 ・コロナ禍において制限がある中で、「1.17の集い」のように東北とリモートでつなぎ、大川小学校の保護者の方の話を聞くなど新たな取り組みをされたことは高く評価できると思います。 ・先生方が生徒に目を向け、声をかけられることで何かを感じていることでよい。叱ることより声かけで生徒の自我が目覚めてくれればと期待します。
		他人を思いやる心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ①いじめの積極的認知に努め、いじめの定義を生徒に十分に理解できるように指導する。また、いじめが確認されたときは、学校全体で組織的に取り組む。 ②生徒の些細な変化にも反応できるよう、生徒とのかかわる時間を増やす。 ③校内外巡回を積極的に行い、いつでも多くの生徒に寄り添える状態を作る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①積極的ないじめ認知を行う為に、教職員や保護者、生徒にいじめの具体例を示しながらいじめの定義を理解していただいた。 ②③校内外の巡回を通して、生徒と教職員が触れ合える時間を増やした。その結果、生徒の些細な悩みや行動の変化に気づくことができ、未然に事故の防止に繋がれることが多くなった。今後はSNSに対する影響について理解を深めさせる必要がある。 	
10		応募前企業見学の活用・充実 ※新型コロナウイルス感染防止の観点からインターンシップは中止とする。	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリア教育としての応募前企業見学への参加率100%達成を目指す。 	A	<p>新型コロナ感染拡大の影響でインターンシップを中止にしたため、就職希望者全員に応募前企業見学を一人で2社まで実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアノート等の積極的な活用により自分の適性を考え将来に向けての目標を持ち、その実現に向け努力することが大切だと思います。一人一人にそのためのアドバイスや支援を引き続きお願いします。
11	進路指導部	企業見学会・補習等の進路行事や進路ホームルームの充実 ※新型コロナウイルス感染防止の観点から進路ガイダンスは中止とする。	<ul style="list-style-type: none"> ①インスパイア・ハイスクール事業を活用し、大学・企業見学会等の行事を実施する中で、生徒のキャリア教育向上を目指す。 ②進路HR計画に基づき、進路ノート・キャリアノートの刷新を図ることで、キャリア教育を深化させる。 ③各行事の事前指導と事後指導を行うことで、行事への取り組み姿勢の向上を図る。 ④「夏季補習」や「総合的な学習の時間」、「キャリア学習ウィーク」を活用し、進学・就職に分けて、計画的継続的な補習を実施する。 	B	<p>新型コロナ感染拡大により、上級学校・事業所見学が実施できなかった。本校独自の「キャリアノート」を作成し、1・2年生の進路LHRで活用した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資格や検定は企業から要望があるにもかかわらず、生徒に取得の意欲が少ないように思われます。もっと興味や意義を感じ、意欲を持って取り組めるように導いてほしい。 ・コロナの影響で求人が厳しい中、先生方には大変世話になりありがとうございました。 ・コロナ禍での進路決定には苦労があつたことと思います。単位制・多部制の利点を生かして卒業後も頑張ってください。
		ハローワークや企業との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、講演を受ける。 ②JOBフェアや企業との懇談会に積極的に参加し、就職内定率100%を達成する。 	A	<p>キャリア学習ウィークについては、新型コロナウイルス感染拡大により、実施できなかった。しかし地元企業への働きかけやハローワークとの連携により、就職希望者に対する丁寧な指導ができた。</p>	
13		企業からの要望でもある資格・検定の取得を充実する	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科に呼びかけ、資格・検定の取得を生徒にも促し、企業の要望に応えるようにする。 	B	<p>依然として検定資格を取得した生徒が少なく、就職試験不調の一因になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期退職が減少するように、在学中の検定・資格取得を目指すよう指導してほしい。
14		就職内定後の辞退ゼロや就職後の離職率の減少を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ①就職内定後の辞退ゼロならびに就職後1年以内の離職率10%以内達成を目指す。 	B	<p>現在のところ、就職内定辞退は無いが、就職後の早期退職は18%に上っている。</p>	

番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
15	保健・特別支援教育部	保健安全管理・保健教育の充実	①全校生を対象に健康相談を実施し、身体的・精神的・社会的に健康問題を抱えている生徒を正確に把握し、継続的な保健管理及び保健指導を行う ②学校医、学校歯科医と協力し、健康診断および事後措置を適切に行う ③学校薬剤師と協力し、学校環境衛生検査及び事後措置を適切に行う ④キャンパスカウンセラーと協力し、教育相談の充実を図る ⑤安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の維持に努める ⑥生徒対象の保健講話及び教職員対象の研修(アレルギー・救急法・カウンセリングマインド)を計画的効果的に実施する ⑦心身の健康に関わる生徒の困難について医療福祉等外部の専門機関と連携し、適切に支援する	B	①コロナ感染症拡大の影響で、全校生に対しての健康相談は実施できなかった。しかし不調を訴える生徒に対し、個別に指導を行うことはできた。来年度は状況が許す限り、全校生への実施と継続的な保健管理や保健指導を行う。多くの生徒が何らかの健康課題を抱えており、それにかかる時間などが課題である。 ②健康診断当日の未受診生徒は年次の教員の協力もあり、減少している。 ③学校環境衛生検査は滞りなく実施できた。引き続き検査を行っている。 ④カウンセラーの協力により、生徒・保護者・教職員など、様々な側面から実施できた。キャンパスカウンセリングを利用する生徒が多いため、コンサルテーションの時間を確保できず、情報共有を工夫する必要がある。 ⑤7月、12月に定期安全点検を実施し、その都度上がってきた危険箇所については、事務室と連携しながら対応できている。 ⑥今年度はコロナの関係で充実した講話及び研修を行うことができなかった。次年度に向け、研修内容等を考える必要がある。 ⑦昨年度同様、外部機関との連携が必要なケースが増加している。個々のケースに対し、年次と連携していくことが課題である。	・様々な特性を持つ生徒一人一人のニーズに応じた教育は、人数的な問題もあり難しい面もあるが、支え合い認め合う集団づくりやユニバーサルな授業づくりが今以上に必要になってくると思います。 ・コーディネーターを中心とした組織づくりがなされているようです。 ・健康面においてはコロナ感染症の影響で取り組みに難しい面があったと思います。学校通信や北高たよりなどの情報発信が大切になってくると思います。
16	保健・特別支援教育部	保健安全課題に組織的に対応する	①生徒の心身の健康課題について、タイムリーに情報を発信し、共通理解のもとで解決を図る ②各生徒が抱える健康課題に応じて、各年次や関係部所との会議を定期的に行う	B	①生徒情報交換会を実施し、要配慮生徒一覧を作成し、生徒の健康状態や配慮について共通理解を図っている。また、保健・特別支援教育部長・副部長・養護教諭・特別支援コーディネーターで定期的に小会議を行い、生徒の情報共有を行っている。その中で、全体に共有した方が良い情報は、年次だけでなく、全教職員と共有したり、対応策などを協議している。 ②適宜、年次主任も交えて保健部会を行い、生徒の健康課題等を情報共有している。ほぼ全ての生徒が何らかの課題を抱えている。	
17	保健・特別支援教育部	特別支援教育の充実	①実態把握・・・療育手帳やサポートファイルを持って入学している生徒の実態把握をする。中高連携シートや発達障害の疑い等、気になる生徒に対しても担任や教科担当者よりリストアップしてもらい把握する。そして、職員全体で共通理解をする。 ②支援が必要な生徒に対して、年次を中心とした職員、保健・特別支援教育部、キャンパスカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等の共通理解を図るとともに、本人と保護者と連携を図り個別の支援計画を作成する。 ③適宜、部会を開き、合理的配慮等の対応を検討する。	A	①、②、③取組内容通りに実施することができている。今後についても継続していく。	
18	保健・特別支援教育部	支援が必要と思われる生徒に対する進学・就労支援	①中学校からの引き継ぎや市町役所福祉課、支援相談員等と連携を取りながら、必要に応じて特別支援学校のセンター的機能を活用して、ケース会議を開き支援についての助言を得たり、専門家を招聘して、専門性向上のための職員研修会を実施したりする。 ②就職希望者で職業訓練等の検査を受けその判定結果について会議を持つ。また、進学・就業時には、移行支援計画を作成する。 ③高等学校における通級の指導を希望する生徒には、自己理解と同時に他者理解されるように学習することで、将来社会に出てから困り感が少なくなるように社会自立できる力を身につける。また、通級指導を希望する生徒には、個別の指導計画を作成する。	A	①、②、③取組内容通りに実施することができている。今後についても継続していく。③については、複数名の指導者が配置され、より幅広い授業展開ができるようになった。今後の課題として、指導者の専門的知識の向上が必要である。	
19	人権部	生徒が自分自身を大切にす	ボランティア活動等の体験を通じて、自己有用感を養う。	B	コロナ禍で状況は厳しかったが、募金等ボランティアを通じて、生徒が人の役に立つという実感をもつことが出来た。また、クリーンキャンペーンなど地域とのつながりもとれた。次年度は、さらに多くの生徒がボランティア経験を積めるよう呼びかける。	・コロナ禍で被災地での現地ボランティア活動はできなかったようであるが、募金活動やクリーンキャンペーンなど地域とのつながりができたのは良いことだと思います。 ・相手や自分を知り、それぞれの長所を伸ばし、笑顔を忘れず身近なボランティア活動を通じ、助け合うことの重要性が認識されていると思います。
20	人権部	生命の尊さを実感する。	あらゆる学校生活を通じて、自他の尊厳を大切にす。	A	今年はコロナ禍で「人の命」を強く意識し、他人の命を守ることが人権の初歩であることを伝えて来た。次年度も自分を守ることが人を守ることに通じることを意識させる。	
21	人権部	人権尊重の基礎を固める。	あらゆる人権課題に対して、まず「知ること」を第一義として学ぶ。	A	今年はLGBTや障がい者の人権という新しい問題に取り組んだ。まずは基本的な事例を学び、個々の人権感覚の涵養を図った。次年度は、本校にも関わる新しい人権問題にさらに取り組む。	
22	ボランティア・図書部	円滑なボランティア活動の実施	地域支援ボランティア活動の依頼先により担当職員を割り振り、生徒にも事前に予告することで円滑に実施する。	A	ボランティアの数が少ない分余裕をもって来た。ただ、次年度以降は、生徒から発信できるようにするなど体制を変える必要がある。	(ボランティア) ・募金活動などを通じた地域との交流ができたことや、語り部としての活動も例年のように行えたことはとても有意義なことと感じました。 ・学校独自の多くの活動がなされていることに敬意を払います。同じ生徒がボランティアに参加することも大切だが、多くの生徒が自らボランティアに参加し、自己有用感を高めてくれたれば素敵だなと思います。 ・今年度はコロナウィルスの影響で九州などの被災地に駆けつけられず、さぞ残念だったでしょう。しかし、いかなる場合でも「ボランティアの西脇北高」の生徒として自負し、いかなる災害においても他の模範になる行動を率先してほしい。現地に行けなくても自分たちでできる活動を提案し、地域と連携した活動を進めてください。
23	ボランティア・図書部	災害支援ボランティア活動への積極的参加	災害支援のボランティアや募金活動、語り部活動を積極的に行なう。	B	残念ながら現地ボランティア活動は実施できなかったが、7月の豪雨災害の募金活動では意識の高い生徒が多数参加した。語り部は、今までの活動の総括として行った。	(図書) ・「ライブラリーカフェ」はとても良いアイデアだと思う。今後も継続してほしい。 ・工夫された活動がなされています。
24	ボランティア・図書部	ボランティア活動における広報の充実	生徒が取り組んだボランティア活動の様子をホームページ等に掲載し、広報活動を充実させる。	A	ホームページを使った活動はもとより、地域の施設と協力しながら活動を行い、関心を持ってもらえる機会ができた。	
25	ボランティア・図書部	図書室の環境整備	①生徒のニーズに合った書籍を購入する。 ②生徒の充実した読書活動のため、本校職員や保護者などに購入する書籍に関する意見を広く集める。 ③生徒が本を探しやすいように適切に配架する。	A	2回のアンケートの実施により、生徒の希望する図書の購入を行った。また、生徒が利用しやすいように、引き続き環境整備をしっかりと行った。	
26	ボランティア・図書部	図書室活用・読書活動の推進	①図書委員を中心に「ボードゲームデー」や「レファレンス大会」、「ビブリオバトル」を企画し、生徒の図書室利用を活性化させる。 ②「ライブラリーカフェ」を実施するなど、図書室を生徒が安心して過ごせる居場所とする。 ③図書だよりを定期的に発行し、生徒が読書に興味を持てる情報を提供する。	B	それぞれのイベントで、積極的に生徒が参加し、盛り上がりを見せた。文化祭とともに行っていたレファレンス大会は中止した。図書だよりによりボランティアの内容も盛り込み、生徒への呼びかけを行った。	
27	心のサポート委員会	生徒と地域の交流機会を創造する	①6月花いっぱい運動での花の育成、11月こども園においてへそレンジャーショーを実施する。 ②災害支援や地域支援のボランティア活動を実施する。	B	コロナ禍において、花いっぱい運動、災害支援ボランティア活動ともに現地活動を実施できなかった。その中でも、育成した花の配布を行ったり、募金活動を行うなど活動できる取り組みを行った。	・悩みや不安を抱える生徒が多い中、生徒や保護者のアンケートから「相談にのってくれる先生がいる」「教育相談を積極的にやっている」という答えの割合が高いことは、先生方の生徒一人一人に向き合った姿勢がうかがえます。これからも継続してほしい。 ・東日本大震災以降、今日まで活動が継続されている意味の大きさを継承してほしい。1.17の希望の灯を大切に思う心や支援地からの礼状は西脇北高の誇りです。またいち早く医療従事者にメッセージと花を届けられた行為に感謝します。
28	心のサポート委員会	生徒と教員の交流機会を創造する	①全校生の縦割りクラスを編成し、学校行事などを通して生徒と教員の交流をつくり絆を深める。 ②各部の連携や北高ホットスペースなどで声かけ運動を実施し、問題行動や生徒の孤立化を防ぐ。	A	①清掃活動では、上級生が後輩に指示をするなど一定の役割を果たすとともに、積極的に活動を行った。 ②自殺予防プログラムの根幹の一つである取り組み。生徒たちの学校の中での居場所づくり、孤立化の防止を実現できた。	
29	心のサポート委員会	外部機関との間に交流機会を創造する	①「自殺予防に生かせる教育プログラム」「いじめ防止プログラム」活用することや職員の研修会、生徒向けの講演会を実施する。	B	①教職員を対象にした、命を大切にす心を育む実践・研究(自殺予防)の研修会を実施した。	
30	ネットワーク管理担当	情報機器を利用した授業づくりの推進	①普通教室や特別教室でコンピュータやモニターを利用できる環境を整備する。 ②情報処理室や普通教室で全教科が授業展開できるようにシステム設定やソフトウェアの導入を推進する。	A	「学びのイノベーション推進事業」により、全HR教室にプロジェクタ、アクセスポイント、タブレット34台を整備することができた。今後は生徒の実態にあったより効果的な活用を考えていく。	・予算の関係もあるが、情報化が進んでいるので、ネットワーク等の環境を整えていく必要があると思います。また先生方の働き方についても効率化を図り、できる範囲で「働き方改革」を進めていただきたい。
31	ネットワーク管理担当	オンラインシステムを活用した円滑な学校運営	①学校から離れた場所でも職員間で情報共有できる環境を整える。 ②生徒と学校が双方に情報交換できる環境を整える。 ③生徒が円滑に家庭学習できるソフトを提供し活用する。	B	臨時休業中はホームページの機能を活用して職員間で情報共有できる環境を整えることができた。集会や講演会では密を避けるために本格的にサテライトで実施することができた。今後はオンラインでの学習などを行う場合、office365、G-suiteの機能を利用した効果的な活用を考えていく。	
32	事務室	環境負荷軽減の推進	①光熱水費の節約 ②紙の使用量の削減 ③環境配慮型製品の購入及び物品の長期使用	B	①臨時休業の影響もあり、前年度より節約できた。 ②裏紙を再利用するなど、使用量の削減に努めた。 ③環境配慮型製品を選んで購入し、環境負荷軽減に努めた。引き続き環境負荷の軽減に取り組む。	・学校訪問時や電話対応など、いつも丁寧に対応していただきありがとうございます。
33	事務室	施設・設備の点検及び校内環境の整備・美化の推進	①施設・設備の定期的な安全点検及び整備 ②樹木の剪定等の美化の推進	B	①定期的に安全点検を実施するとともに、予算執行が可能な範囲内で整備を行った。 ②計画的に樹木の剪定を行うなど、校内美化に努めた。引き続き校内環境の充実を図る。	
34	事務室	接遇の推進	①来校者への挨拶及び丁寧な窓口対応 ②迅速な電話対応	B	①②良い接遇が実践できた。引き続き接遇の向上に努める。	